

令和7年4月8日

一学期始業式のあいさつ

校長 村井 浩昭

※ 新しい学年、新しい学期初め・・・情理を尽くす

春休み中に近くの地域で山火事があり、本校生徒に被害はなかったものの近隣の地区では被害に遭われた方、避難生活を余儀なくされた方がおられます。心よりお見舞いを申し上げます。

さて、今日から令和7年度が始まります。一年前は、皆さんとの出会いがありました。この季節、新しいクラスメート、新しい先生との出会いに心弾んでいるのではないですか。私は、「始めたら始まり」ということをよく言います。毎年この時期の小松の桜は見事で、春らしい天気になると躍動感が感じられ、さあやるぞという気持ちにさせられます。今こそ何かを始めるのに絶好のときです。

今年度の目標は、「情理を尽くす 学び合い 高め合い 築き合い 一伝統を継承し、養正が丘から未来を拓く」です。「情理を尽くす」というのは相手の気持ちや立場を十分考慮に入れながら、道理にかなうように物事の筋道を立てるということです。私の教育理念は「情理一体」です。感情、情緒など心の部分、理は、理屈や定理など知識の部分です。情的感受性と理的感受性を備えたバランスの取れた人間形成をしたいという思いを持っています。そして、現小松高校として三学年揃う最後の年。今までの伝統を尊重しながらも新しい学校への架橋を築いてほしいと考えています。

※ イチロー氏の「不完全でよかった」・・・不完全だからこそ「あとひとつ何ができるか」

メジャーリーグのマリナーズやヤンキースなどで活躍したイチロー選手が今年の1月にアメリカの野球殿堂入りを果たしました。1920年以来84年ぶりに塗り替えた2004年の年間最多安打262安打という大記録は今も破られていません。殿堂入りは確実と言われ、満票での殿堂入りが期待されていました。99.7%という圧倒的な数字で選ばれましたが、わずかに1票足りず、100%ではなかったのです。そのことについてイチロー氏は、こう語りました。

「1票足りないというのはすごく良かったと思います。不完全であるというのはいいなって。生きていくうえで、不完全だから進もうとできるわけだね。」人間は不完全であることが「成長」し続けられる理由なのだを教えてくれています。

野球では、9回ツーアウトで「あとひとつ」と応援が響きます。守るほうも攻撃するほうも、それまでは試合は終わっていない、「あとひとつ」の力が、試合の流れを変えることもある。だからこそ、そこに全力を尽くす「あとひとつ」に込められた思いこそが不完全な部分だと思えます。

昨年度一学期の終業式で、高校一年生で亡くなった私の甥っ子萩田大貴君の話をしたのを覚えていますか。彼はもう一度みんなと一緒に野球がしたいと願っていましたが、残念ながら病に勝てませんでした。ファンキーモンキーベイビーズの「あとひとつ」という歌に励まされながら、病に立ち向かっていました。

「あとひとつ、もうひと踏ん張り」と、最後まで前を向いて生きようとし、葬儀の際にも、この「あとひとつ」が流れ、多くの人が別れを偲んでいたとのこと。

私たちは、不完全です。何か足りなかったり、うまくいかなかったり、思うように進めなかったり。だからこそ、私たちは「あとひとつ」努力できる。

あとひとつの坂道をひとつだけの夜を 越えられたなら笑える日が来るって
今日も信じてるから君もあきらめないでいて 何度でもこの両手をあの空へ

この令和7年度「あとひとつ、何ができるか」を意識して始めてみてください。みなさんの成長と挑戦に、大きな期待を込めて、始業式のあいさつとします。